

民全体に与えられる大きな喜びを告げる。今日ダビデの町で、
あなたがたのために救い主がお生まれになった ルカ2章11節

イエスのカリタス友の会の皆様、この冊子をご覧になってくださっている皆様、主のご降誕と新年のお喜びを申し上げます。温かいお心で友の会の活動を応援してくださっている皆様に心から感謝を申し上げます。

「イエスのカリタス友の会」を思う時、私の頭に自然と次の歌が浮かんで参ります。「一人の小さな手 何もできないけどそれでもみんなが集まれば何かできる何かできる」。決して小さな手ではないのですが、この歌が表すように、皆様お一人おひとりの心が集まって大きな支援となっています。皆様のお心遣いを困難の中にある海外の方々に相応しくお届けできるようにこれからも務めて参りたいと思います。

ところで、10月にサレジオファミリーの合同黙想会が行われ、イエスのカリタス修道女会は、創立者カヴェリ神父様がサレジオ会員ですので、私もその一員として参加致しました。黙想会の指導者は、サレジオ会前総長のチャーベス神父様でした。その導入で、彼は「聖人になりなさい」、「神はすべての人を聖性に招いている」と言われました。皆様は「聖人」についてどのようなイメージをお持ちになりますか？

私は、神父様のお話を伺って、創立者の勧めや、先輩のシスターたちから聞いていた「聖性」という私たちの生活の本質を再確認することができました。それは、喜びをもって生きることです。チャーベス神父様は、聖人・聖性について、サレジオ会の創立者ドン・ボスコとその教え子の少年たちを例に『ドン・ボスコは少年たちを喜びの霊性によって導きました。いつもほがらかに喜びを保つこと、勉強とお祈りを熱心にする、皆に親切にし、友達をたすけることを勧めていました。ドン・ボスコは「自分の務めを愛と喜びをもって果たすなら、そこに霊的成長のために必要なすべてが含まれていると確信していた』と説明してくださいました。

生活の中で、「すべきことは、喜んで行った方が気持ちいいよね」と聞くことがあります。その時、それを語る人の行いに、温かい思いやりを感じ、本当にうれしく、励まされますが、それは正に喜びの霊性がなせるわざだと思います。「今」すべきことを喜んで行うこと、これは大切なことですが簡単ではありません。

そこで、最近出会ったある方法を紹介致します。それは「マインドフルネス瞑想」とも言われますが、日本ではイエズス会の柳田神父様によって「キリスト教的ヴィパッサナー瞑想」として紹介されています。「ヴィパッサナー」(パーリ語)とは、「はっきり、見る」という意味で、この瞑想の中心は「今、ここにあるがままに気づく」ということです。この気づきの瞑想は、心の不安や悩みを抱えて苦しむ人たちに解放といやし

を与え、キリスト教の教えの中心であるアガペの愛、すなわち無償・無条件の愛を心に育むのにとっても効果があると考えられています。つまり、「今」を、いろいろなことに振り回されずに心穏やかに喜びをもって生きるための方法なのです。

神父様の資料から大切な3つのポイントについて説明させていただきます。

1つ目は「今、この瞬間に意識を向けるということ」。私たちは、過去の失敗を思い出してよくよしたり、将来のことを考えて不安になったりと、私たちの心は「今ここ」ではなく過去や未来を行ったり来たりしています。ある研究によると、人は1日の約半分の時間を心のさまよいに費やしてしまっているとのことです。

2つ目は「あるがままに」です。つまり、大きくも小さくもせずに「あるがまま」の姿で受けとめるということです。私たちは、しばしば、自分の体験や考えに価値判断を入れてしまいます。例えば、相手の一言で怒りが生じたり、仕事がかまくゆかずに「自分は結局何をやってもダメだ」との考えが湧いてきたりします。怒りの感情や「ダメな自分」という考えは、自分のネガティブな価値判断による反応なのです。



3つ目のポイントは「気づくこと」です。「気づく」とは巻き込まれないように距離を取って意識を対象に向けること。私たちは、多くの場合、自動的な反応で感覚・感情・考えと自分を一つにしてしまいます。例えば、怒る時には、無意識のうちに「怒り」と自分を一つにしてしまいがちです。そうすると怒りに飲み込まれて、時に相手に対して言うてはならない言葉をぶつけ、自分にも相手にも取り返しのつかない結果を招くことがあります。

ここで瞑想法の詳細に触れることはできませんが、人と関わる時や、自分の務めを行う時に一呼吸して、心を落ち着け、その時行っていることを、心を込めて行うことは意味があると思います。5分後、1時間後、1日後を考えると無理だと思うことでも、「今この瞬間」ならば、喜びをもって、心を込めて行うことはできるのではないのでしょうか。この瞬間、瞬間が、実際には私たちの生涯を刻んでいるのです。

2000年前、主の天使が告げた民全体に与えられる大きな喜び「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった」。この喜びを、日常生活の中で、その瞬間、瞬間に保ちつつ、成長させて行くことができれば素晴らしいですね。皆様お一人おひとりの上に神様の豊かなお導きがありますように心からお祈りしています。

イエスのカリタス友の会コーディネーター
シスター 峯 妙子



ボリビアより感謝のお便り

乳幼児施設オガールファチマ 生活必需品並びに医薬品、衣料品の購入費の支援

ここ数年ボリビア中央政府が、年に1度生活必需品の米、油、砂糖、その他の穀類、ミルク等殆ど1年分に相当する現物援助を各オガールに配分し、大変助かっていましたが、今年はその援助が全くないという知らせがきました。この援助があったので、県から支払われる食費、1日1人15ボリビアノス(約2ドル)の何割かを衣服費や医療費、施設の維持管理費に当てることも出来ました。一般

の人々の現物支援もありますが定まっておらず今後運営が厳しくなって来ます。お米は日本人移住地の方々が現物を、今までも支援して下っていますが、他の物は、殆ど購入しないとならないので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

県の福祉部からのオガール運営支援費は、毎月食費だけです。ご検討よろしく申し上げます。

申請金額合計 6,000 ドル

この申請について、資金全額を支援することが可能であったため、申請は受け入れられ、ボリビアへ全額お渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。

カリタス友の会・会員の皆様

カリタス友の会の皆様、お元気でお過ごしでしょうか。ボリビアから心からの愛と感謝のお便りをお送りします。こちらは現在雨季が近づいているせいか、雨が降る度に寒暖の気温差が激しく、赤ちゃんや子ども達が風邪を引かぬよう、お天気とにらめっこの日が続いています。

この度は、「オガールファチマ」の生活必需品の購入のため、6,000ドルもの寄付を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。70名の乳幼児の心身の健康を維持するために必要な物品購入のために有難く使用させて頂きます。ありがとうございました。ここ数年、政府から年に一度支給されていた生活必需品(油・米・砂糖・小麦粉・ミルク・他)が今年は無いという事が分かってからは、施設内各分野の経費削減を図り、食費に回しておりました。しかし、これから雨季に向かうに当たり、布オムツが乾かず、紙オムツの使用も必要になってくる現実問題に頭を悩ませておりました。県から頂く食費(1日一人当たり2ドル)だけでは、医療費・紙オムツ代・教育費・衛生消耗品まで捻出するのは難しく、神様の助けを祈り求めている時に、カリタス友の会から援助を頂けるという「良き便り」を聞き、本当にホッと神様に賛

美と感謝をお捧げしました。ありがとうございました。今年は7名の子ども達が幼稚園を無事卒業し、オガールファチマを巣立っていきます。他の施設へ措置変更する子もいれば、家庭へ復帰する子もいます。また新学期には幼稚園入園を控えた子ども達もおり、それぞれの新しいステップのため、少しでも心を込めた良い準備ができればと願っています。主の祈りにある「日毎の糧(衣食住・教育)」が私たちの子ども達、そして全ての人にありますように。

最後になりましたが、カリタス友の会の皆さま、お一人お一人に神様の豊かな祝福と聖母マリア様の取次ぎを心から願っております。2018年が皆さまにとりまして、恵み豊かな年となりますように。心からの愛を感謝をこめて

2017年12月8日

オガール・ヴィルヘン・デ・ファチマ
シスターベネディクタ立石順子



クリスマスメッセージ

フィリピンより

MERRY CHRISTMAS & A HAPPY NEW YEAR TO ALL!

主のご降誕と新年のお喜びを申し上げます！

カリタス友の会の役員、会員の皆さまに心からの感謝をこめてクリスマスと新年のご挨拶をお送りします。常夏のフィリピンでは、12月でも日中は30度という暑さです。日本のような寒さ厳しい中、貧しい馬小屋でお生まれになられたイエスさま、というイメージはつかみにくいかもかもしれません。フィリピンは、自然災害、国内での紛争、政府の政策によって多くの生命が失われている自国の現実に多くの若者たちが痛みを表し、行動を起こしている今日この頃です。

この1年もさまざまな形で皆さまからのご支援をいただき、カリタスドンボスコスクールは困難はありますが、地域の人々と共に歩み続けてきました。12年生までの学制が施行され、今年度初の12年卒業生を送り出すこととなります。この新学制のために、大学はこの2年間新入生がおらず、シニアハイスクールの11.12年生を受入れてきました。それも、大学にそのまま入れる、高校での基礎科目の単位が大学で認められる・・・などなどの宣伝をして募集を強化しています。多くの生徒達は大学付属の高校、中学へと進路を変える流れがでてきております。このよう

な厳しい現状にあります。本校独自の日本語、日本との交流、ロボティクスなどをより一層深め、宗教にもとづいた人格形成、幼稚園教育の充実を図り、教科の学習だけでなく人生の学びをする場としての学校づくりに励んで参りたいと思います。微力なままの私たちではありますが、皆さま方の温かいお励ましとご支援に支えられて、これまでもこれからも神さまのお望みを果たすよう努めていきます。

皆さまの寛大なお心に感謝をこめて、フィリピンからお祈りをお捧げさせていただきます。近況報告と感謝をこめて。

サンタローザ修道院共同体一同
カリタスドンボスコスクール
生徒、教職員、修道者一同





南スーダンより



イエスのカリタス友の会の皆様

南スーダンよりクリスマスと新年のお喜びを申し上げます。

いつも皆様の温かい支援により、南スーダンの人々を助けて頂いていることに心から感謝致します。南スーダンは独立して5年のうち2度内戦があり、未だ政治も経済もすべてが不安定のままです。国内難民も、隣国への国外難民も増え続けている状況です。内戦に加え、現在は食糧難に陥っています。それは、11月から、早くも乾季が始まったからです。

去年は、雨季にほとんど雨が降らず食糧確保が本当に大変でしたので、今年は、雨季が始まる時、南スーダン司教団から、すべての教会に、「雨乞いのミサを3日間行うように」との要請がありました。今年も雨季に入ってもなかなか雨は降りませんでした。私たちの教会でミサを始めた第一日目に突然ゴーという音がしたかと思うと、滝のような雨が降り始めました。マイクのない聖堂は司式司祭の声が聞こえないくらいの豪雨でした。雨はミサの間中降り続き、外は、道が川のようになっていました。次の日、朝から太陽がさんさんと照りつけ、昨日の雨は奇跡だったのかと思っていれば、夕方またミサが始まってしばらくた

った頃、突然強い風が吹き、雨が降り始めました。その次の日も同じように、ミサが始まったとたん雨が降り始めました。これは祈って恵みが与えられた貴重な体験となり、神様は南スーダンのことを本当に、心にかけてくださっていると確信した体験でした。その後、作物がよく実ったので食糧難は少し緩和されていたのですが、乾季が始まったため、雨のお陰で潤っていた土地は、ここ2週間、乾いた風が吹き、気温も上昇してすっかり乾き始めています。雨季の間は仕事のない村人に畑仕事をしていただき、食糧配布をすることができましたが、これからは、違った形での支援を考える必要が出てきました。

皆様の温かい支援を引き続きお願い致します。南スーダンは、自立していくための土台がまだまだできていないので、皆様からの支援なしには、何もできないのが現状です。皆様のご支援を、ただ食糧支援としてだけではなく、村の人たちが自立していくことができるような支援となるように、彼らと共に方法を考えながら模索していきたいと思っています。

乾季に入り、反政府軍が活動を始めているようです。11月の初めには、政府軍が大統領官邸を守るため、交通規制などがありました。南スーダンの平和のために、平和の君である幼子イエス様に特別なお恵みをお願いしたいと思います。



前回の日本帰国の際、皆様から頂いた支援金で、子供たちのために簡単な制服を作りました。子供たちは、毎日制服を着てカリタスこどもセンターに来ます。



食糧配布、11月22日に配っている様子



国内難民のこども



国内難民のキャンプの家



ボリビアより



イエスのカリタス友の会の皆様へ

クリスマスキャンドルの炎が灯り、光と希望を待ちわびる季節となりました。カリタス友の会の会員の皆様方いかがお過ごしでしょうか。

南米の心といわれるボリビア国より、友の会の皆様に、心からの感謝と喜びのメッセージを送ります。皆様方の寛大なご理解とご協力に支えられて、神の愛ーカリタスの宣教活動を続けられることとお礼申し上げます。資金集めのために、教会でのバザーでの物品販売など、いろいろな機会を利用して、沢山の時間と労働を提供して下さっておられる皆様方のご奉仕を目の当たりにする機会に恵まれ、その熱意と善意に頭が下がり、感謝の一言では言い表すことのできない思いが溢れました。こうした皆様の地道な活動が、大きな愛の実りとなり、私達の手を通して、特に、オガール・ファティマの子供達、職員達に届いていて、私

達は皆様方と愛の絆で結ばれていると実感したひと時でもありました。

この数年、地球温暖化の影響で気候が不安定であったり、朝夕と日中の温暖の差が激しくなると、抵抗力のないオガールの子供達の健康に大きな影響があり、風邪をひいたり、肺炎、気管支炎にかかって入院するケースが増えているようです。気が抜けない日々ですが、託された子供たちの笑顔が、私たちに100%のエネルギーを充填してくれます。

また、ボリビア国では、2月から新学期が始まるため、11月末に学期終了となり、12月から1月にかけて、灼熱の太陽の下で、カリタス学園の生徒達は夏休みを過ごします。そして、サンサンと太陽が照りつける中、大粒の汗を流しながら、陽気で軽やかなリズムに乗って、イエス様の誕生と新年のお祝いを迎えます。

夏季は、雨季の時期でもあり、オキナワコロ

ニア地域では、時に、美しい壮大な草原や道が、川や湖に変貌します。自然と共存しながら、人々と共に分かち合い、霊的生活を支援しています。

お生まれになる幼子イエス様が、私達の心にいつまでも留まり、祝福して下さいますように。

特に、カリタス友の会の会員の皆様方とご家族の皆様方ご意向とご健康のためにお祈り申し上げます。どうぞ、ご健康に恵まれ、良いクリスマス、新年をお迎え下さい。心からの感謝と祈りを添えて。

ボリビア国を代表して。

シスターテレジア川端



子供支援センター



オキナワコロニア 家庭訪問



カリタス学園 初聖体



カリタス学園 専門コース建築



オガールファティマ



貧しい家庭への支援





アルゼンチンより



イエスのカリタス友の会の皆様

アルゼンチンは暑い夏を迎えようとしています。一年が飛ぶように過ぎ、イエス様の誕生を祝う季節が巡ってまいりました。日本語学校の子供たちは、今年は特に日本との関わりが密だった年でした。昨年11月に安倍総理のアルゼンチン訪問があり、子供たちと共に、ブエノスアイレスの日本人会館で歓迎のセレモニーに参加しました。



日本大使を町にお迎えして、感謝を述べました。



日本語で手紙を書き、近くの日本語学校の友達と手紙を交換しました。(エスコバル日本語学園)



お茶も習ったよ！！

今年、11月には厚木市の消防署から私たちの町に消防車の寄贈があり、町を代表して、日本大使にお礼を述べました。茨城県、塚町から小学生12名、関係者6名の訪問があり、みんなでお迎えして、歌と現地の踊りで歓迎しました。アルゼンチンでは食料品も、生活用品も驚くほど物価が上がり続ける中、地域の子供たちは、元気いっぱい学び、遊び、成長し続けています。わたしたちも皆元気に、夏の日差しをいっぱい浴びて、神様のいつくしみを感じています。皆様の上に、幼子イエス様の愛と平和とよろこびが豊かにありますように。感謝のうちに！！



地域の子供たちの家庭を訪問しました。



雨に濡れちゃってさむいよ～～。



ペルーより



イエスのカリタス友の会の皆様

南米ペルーより、主のご降誕のお喜びを申し上げます！2017年もはや過ぎ去ろうとしています。皆様いかがお過ごしでしょうか。こちらリマは日増しに夏らしくなってゆく季節で、今が何月なのか錯覚を起しそうです。しかし聖堂に飾られたアドベントリースのローソクが灯されるのを見て、今年もまた、イエス様が私たちのうちに生まれてくださる季節が来たことを実感しています。今年も一年、時間と労を割いて様々な形でのご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

今年は私たちにとって、大変うれしい出来事がありました。2010年末にサン・ガブリエルへ移転した Maria Taki 保育園の安全のため、カリタス・ペルーが外壁建造のプロジェクトを立ち上げ、日本大使館へ援助を申請していましたが、2017年2月にそのプロジェクトが受け入れられ、壁の建造が実現されることに

なりました。友の会の皆様からは、2013年にこのための資金の一部をご支援いただきました。工事は今年10月に施工され、現在進行中です。プロジェクト受け入れのためには、建造資金の一部を修道会が請け負うことも条件でした。皆様のご協力なしにはこのプロジェクトは成り立たず、泥棒や麻薬常習者が徘徊する地域、砂地のため土台の崩れてゆく急な斜面の土地で、子供たちはいつまでたっても、落ち着いて教育を受けることができなかつたでしょう。保育園で学ぶこの地域の子供たちや保護者をはじめ、私たちにとって、本当に大きなクリスマスプレゼントです。

小さなものをいつくしむために、小さなものの姿をとって私たちの間に来てくださった神様は、このように、今日も私たちのただなかで、苦楽を共にしてくださっています。これからも共におられる主を近くに感じながら、歩んでゆくことが出来ますように。心からの感謝を込めて。

リマの聖女ローザ準管区ペルー共同体



外壁近景



ペルーについての学びの日



11月16日現在、外壁建造の様子



保育園のまわりに植えるため、持ってきました



ブラジルより



イエスのカリタス友の会の皆様

クリスマスと新年のお喜びを申し上げます。サン・マテウスカリタス学園で活動している私たちは、皆様の暖かい援助に励まされ、元気にすべての職員と力を合わせて教育の使命に励んでいます。皆様のお祈りとご支援に支えられていること心より感謝いたします。

さて、ブラジルでは1月末に始まる新学期の準備を始めています。10月から次年度の入学手続きが行われます。その中で、奨学金についても検討がされます。

まず、前年度に一部奨学金を受けていた生徒のリストは教育部で、教育内容及び態度について話し合い、そのレポートを奨学金委員会に提出し、この委員会はこのレポートと親権者の生活状況の書類をもとに、親権者の面談、家庭訪問を経て最終的に奨学金のパーセンテージを定めます。この作業は12月まで続きます。2017年度は友の会員の皆様のご支援で全生徒の7.5%が奨学金を受けることができました。

そのうちの一人は100%の奨学金が必要でした。それは、父親はいても、結婚せず別々に住んでいるのですが、両親ともリストラに会



い、どうしても教育費を払うことができませんでした。母親は、その子のためにどんな仕事もする姿勢が見られましたが、収入が得られませんでした。地域の公立学校は麻薬や暴力問題が絶えないので、そこへ通わせることを恐れて、必死で学校の協力を願いに来ました。

一人ひとりの問題を聞いていると親の愛の偉大さと貧しい人々の痛み、そして困難、苦境などに立ち向かう力に驚かされます。

親が亡くなった家庭、貧しくても助け合っている家庭、他の家族に助けられている家庭など、みな必死で生きています。親はわが子の幸せを願い、子どもの将来のためにすべてを差し出している姿は、神様の愛を思い出させます。私たちも、一人ひとりの子どもとその家庭のために、これからも全力を注いで参りたいと思います。



バザーの報告

井荻聖母幼稚園サマーフェスタ



イエスのカリタス(日本語で愛)修道女会は、1937年に創立されて今年で80年、この良き年にイエスのカリタス友の会バザーをお手伝いしました。7月2日(日)梅雨とは思えない暑い暑い一日でした。「友の会」のお手伝いの方々は接客がお上手で、野菜、手作り品、衣類、雑貨等完売品も多くありました。また来年も神様の「愛」と豊かなお恵みをお祈りいたします。

目黒サレジオ幼稚園バザー

晴天にめぐまれた9月9日土曜日に今年もバザーに参加させていただきました。所狭しとシスターお手製のパウンドケーキ、マドレーヌ、EM石鹸、おもちゃ、衣類が並びました。10時の開会と同時に真剣な表情でおもちゃを選ぶ園児のすがたは、何時見てもほほえましいものです。お目当ての品物を手にしていただけたかと思います。2時の終了になると赤いタオルを首にしたご父兄のおかたづけ隊のお手伝いで気持ちよく一日を終えました。ご協力くださいました園の皆様に感謝いたします。



町田サレジオ幼稚園バザー



10月14日、町田サレジオ幼稚園バザーに去年に引き続き出店させていただきました。あいにく雨模様の肌寒い一日でしたが園庭のテントに、シスター手作りのケーキ、寄贈品、衣類などを並べたのはいいのですが果たしてお客様が来てくださるか心配でした。最初は園舎に向かうご父母ばかりでしたが、テントに気づいた方々が見に来てくださいました。その後園舎内にケーキを売りに行き、あっという間に完売しました。合間に園舎内の展示品を見に行ったりして久々に若いご父母、園児のエネルギーを頂いた一日でした。

カトリック調布教会バザー

10月29日、台風22号の影響でいつもの広いグラウンドから信徒ホールを会場にして準備が始まりました。限られたスペースの中、シスターのケーキ、ジャム、EM石鹸の他、お寄せ頂いた品々もところ狭しと並べられました。雨の中をたくさんのお客様が列を作ったため予定が早められ開場。オープンと同時に会場は身動きが取れないぐらいの大にぎわい。品選びをされるお客様とも話が弾み熱気のうちに終了しました。その後台風の為、駐車場がぬかるみ、何台もの車が出庫できない状態でした。沢山の方々が協力くださり、無事に脱出できました。台風の中、準備、ご協力くださった方々に感謝いたします。



カトリック下井草教会フェスタ



10月29日(日)台風22号が接近する中、カトリック下井草教会フェスタが行われました。前日に、延期するべきかどうかと声があった中、教会の方がテント張りなど尽力くださり、無事開催されました。来てくださったお客様から、台風で中止と思っていたのに行われていて大変嬉しいと声を掛けて頂きました。いつもより早い時間に終了しましたが、沢山の方から励ましの声、ご支援を頂き感謝の一日となりました。

カリタスの園ふれあいバザー



青空が広がったバザー会場には、下井草教会の方々も沢山いらしてくださいました。ふれあいバザーは、皆が円をかくようにひとつにまとまっています。「本来のバザーの雰囲気の良いわ」とほめてくださる方もおられました。そして、今まで、このバザーは一度も雨が降ったことがないと伺い、シスター方の祈りの力を感じた一日でした。

カトリック関町教会バザー

11月12日（日）秋晴れの中、カトリック関町教会のバザーが行われました。アットホームな雰囲気の教会で、いつも家族のように迎えてくださいます。友の会は年に10回以上バザーを行います。友の会会員をはじめ多くの方のご協力により沢山のバザー物品が集まります。いつもテーブルには並べきれないほどです。それを準備しながら、その場になくても、沢山の愛の手が共に働いていることを感じます。また教会の方々の温かい心と愛の奉仕に感謝の一日でした。



バザー協力者 43名（団体含む） 寄付支援者 243名（団体含む）

使用済み、未使用切手・未使用、書き損じハガキ・外国コイン 80名（団体含む）

ご支援、ご協力いただきました。ありがとうございました。

事務局から

9組の方がご入会くださいました。よろしくお願ひ致します。

毎月10日には、イエスのカリタス友の会の会員のためのお祈り（ごミサ）が、イエスのカリタス修道女会管区本部修道院聖堂において捧げられています。どうぞ心を合わせてお祈りください。



イエスのカリタス友の会入会案内

イエスのカリタス友の会は、イエスのカリタス修道女会が行う宣教活動を、財政的に支援する事を目的とするボランティアグループです。

会員の活動

任意の時期に、任意の金額を友の会に寄付します。(入会費・年会費はありません)

可能であれば、バザー、使用済み切手の収集・整理、その他の活動に参加、協力します。

入会について

入会ご希望の方は、下記の事項について事務局にお知らせください。(電話・FAX・メールのいずれかで結構です)

住所・氏名(ふりがな)・電話番号

入会希望を受けて、事務局にて名簿の登録その他事務手続きを済ませた後に、イエスのカリタス友の会の規約をお送りいたします。

個人情報について

入会時に受け付けた個人情報は、友の会事務局にて慎重に管理されます。同会会員に対しても公開は控えさせていただいておりますので、ご了承ください。

尚、ご寄付・バザーの物品提供・使用済み切手の収集等にご協力いただいた際には、次回発行される「イエスのカリタス友の会だより」にお名前のみ掲載させていただいております。

匿名希望の方は、その旨をお知らせください。

友の会会員のために

イエスのカリタス修道女会日本管区本部において、毎月一度友の会会員のために、感謝のミサが捧げられます。

ご支援くださる方への感謝と報告を兼ねて、年2回「イエスのカリタス友の会だより」をお送りしています。

イエスのカリタス友の会の趣旨をご理解くださり、賛同してくださる方は下記までご連絡ください。

〒167-0021 東京都杉並区井草 4-20-5

イエスのカリタス修道女会

日本管区本部修道院内

イエスのカリタス友の会事務局

TEL 03-3396-2171 FAX 03-3396-2150

Email tomonokai@m-caritas.jp

バザーのご協力

イエスのカリタス友の会は、年に10回以上バザーを行っています。バザー出店の為、多くの方からバザー物品を献品して頂いております。皆様の協力と温かい心遣いがあるからこそ行える活動です。この活動をよりよく行う為に、今回、何点かお願いがあります。

衣料品は新品、中古衣料を受け付けています。中古衣料については、クリーニングまたは家庭で洗濯したものに限り、不衛生な衣料(カビ・虫食い・シミ汚れ・破れ・着古したものなど)は、ご遠慮ください。靴下、下着、タオル、ハンカチ等は新品のみです。

食器は、欠けや汚れているもの、会社の宣伝が入っているもの、カバン、靴は使い古したものの、傷んでいるものはご遠慮ください。

家電製品・雑貨等は新品をお願い致します。

布団や大型の家電製品等、サイズか大きなものは、保管場所がありませんのでご遠慮ください。

事務局の円滑な業務のため、ご協力をお願い致します。

事務局の円滑な業務のため、ご協力をお願い致します。





事務局からの声



年齢のためでしょうか。時間のたつのが早いと感じています。そして忘れることも多くなりました。でも、決して忘れることのできない「東日本大震災」から、まもなく7年が経とうとしています。状況は少しずつ変化してもまだまだ困難のなかにいらっしゃる方々を忘れず、新しい年が穏やかな年であってほしいと願います。(K.K.)

秋のカリタスふれあいバザーに初めて参加をさせていただきました。イエスのカリタス修道女会が乳児園、養護施設、幼稚園そして、志願院を運営されていることは存じておりましたが、バザーを通して実際に園や志願院で生活をしている皆様方に出会え、そこでの生活のほんの一部を垣間見ることが出来たような思いがしました。修道会が、子供達一人一人の大切な命を預かり、慈しみ深く育ておられる姿を拝見致しました。そして、更に海外へ宣教、福祉活動に行っておられるシスター方、信仰を通して神様の「隣人を愛せよ」のみ言葉に添った活動を、友の会員の皆様方と共にお手伝いをして参りたいと思っております。(Y.M.)

今年も押し迫ってきました。振り返ってみると天災、人災と痛ましい出来事が沢山あった一年でした。特に難民が命からがら逃げ、母親に抱かれた幼子の痩せ細った体と、何かを訴えているような大きな瞳は重く心に焼き付いております。宣教地で子供たちのために働くシスター方のご苦労は想像以上のものと思いますが、友の会の皆さまと共に心を込めて祈りをお捧げしたいと思えます。(H.Y.)

今年も天候不順の影響で各地で災害が起きました。四季を楽しむことができることは、幸せな事ですが、時として大きな災害も起きます。災害に遭われた地域の早い復興をねがいます。(Y.F.)

朝からの雨が上がったので、ザビエル祭に出かけました。黄金色に輝く2本の銀杏の木の下、子供が一人落ち葉のうえにころがって遊んでいたのどかな光景。その帰り、友人のお見舞いに、音のない病院と私は呼んでいるが一基あるエレベーターがギーギーと音をたてるのみ、どの部屋も患者さんは皆眠っている。週一度は見舞いと思っていたのに帰りが悲しくて足が遠のく。もう一年半以上寝たきり、元気で明るかった友人とキラキラと光る銀杏のしたでお喋りがしたいまた来るからねと手を目のところでかざしたけれど、分かったかな？神様守ってください！祈りつつ、その日も涙がでて寂しかった。(T.I.)

待降節が始まりました。クリスマスリースをかけ小さなツリーを飾ります。子ども達が幼い頃、私が飾りつけをする横で、ままごとをして遊んでいました。そんな時、十字架につけられたイエス様を見つけ、そのイエス様を十字架からはがし、ツリーの綿を布団の様に掛けて寝かせていました。「どうして？」と聞くと「痛そうだし寒そうだったから。」と答えました。素直な子どもの心がずっと続けば 皆が暖かいクリスマスを迎えられるのと思いました。(K.Y.)

カリタス会の聖歌隊「スモールクワイヤ」は様々な所からコンサートを依頼され、出向いて行きます。その度、必ず歌うのは、Sr.古木が作詞作曲した「いのち」です。練習を含めて何百回と歌っています。聞き手に歌のメッセージが伝わるよう心を込めて歌います。その中でも、♪いのちがこんなに綺麗なのは神さまがこころ込めてるから♪を歌う時、神は、私たちが生まれる前から愛しており、心を込めて造ってくださっている。世界が神の愛で満ち、神の望む平和が訪れますようにと願っています。(M.T.)

バザーのお知らせや報告、スモールクワイヤによるコンサートのお知らせ、活動報告などが、イエスのカリタス修道女会のホームページでもご覧になれます。海外や日本で働くシスターたちの宣教活動、CDのお申し込み方法なども載せてありますので、ぜひご利用ください。 <http://www.m-caritas.jp>

寄付金受入れ口座

加入者名 イエスのカリタス友の会

郵便振替口座 00160-2-564970

発行 イエスのカリタス友の会

〒167-0021 東京都杉並区井草 4-20-5

TEL : 03-3396-2171 FAX : 03-3396-2150

e-mail : tomonokai@m-caritas.jp

代表 山縣久美子 事務局長 片山久美子

